

***Papers and Proceedings of the MTNA と Music Supervisors' Journal* にみられる 1917 年の米国の鑑賞教育の動向**

山 辺 未 希

(本講座大学院博士課程前期在学)

Trends in Music Appreciation Education in the United States in 1917 as Seen in the *Papers and Proceedings of the MTNA and Music Supervisors' Journal*

Miki YAMABE

Abstract

Around the transition from the 19th century to the 20th century, in response to the transformation of music culture in the United States of America, singing departments were transformed into music departments. During the transition from singing to music departments, research, practice, and discussion on music education became active. This study clarifies the trend of music education in the United States at that time and the characteristics of each journal in detail by examining the *Papers and Proceedings of the MTNA* and *Music Supervisors' Journal*, which was a music education journal of that period. Focusing on the articles on music appreciation education published in 1917 in the *Papers and Proceedings of the MTNA* and *Music Supervisors' Journal*, it became clear that while many schools were equipped with gramophones and records, and music appreciation education became widespread, the disparities in the music environment between regions became a problem. In this period, companies not only proposed music education using records, but also considered regional disparities.

1 はじめに

アメリカ合衆国において、音楽が教科として位置づけられたのは、19世紀前半である。1838年にボストンの公立初等学校に唱歌科が導入された後、1893年の全米教育協会（NEA）15人委員会において、唱歌科は初等学校の必須科目として定められた（NEA 1895, p.16）。Mark（1978）によると、19世紀の終わり頃には、読譜に関する論争が起こった。この論争により、人々が方法論について考えるようになった結果、「どのように音楽を教えるか」「何を教えるべきか」という問いに先行し、「何故音楽は教科として教えられなければならないのか」ということが考えられるようになった。この「何故」という問いに対して、一度たりとも適切な考慮がなされていなかったことを何人かの音楽教師が認識した（p.8）。

19世紀から20世紀への転換期頃、蓄音器や自動演奏ピアノ等の電子機器の発明、吹奏楽団やオーケストラの活性化、多くの作曲家の輩出がみられるようになった。言い換えると、唱歌科が歌唱教育や読譜教育に特化したものであった一方で、アメリカ合衆国における音楽文化は器楽や鑑賞との関連がより一層強固なものとなったのである。この隔たりに対し、マーク（1986）は、「簡単に言えば、わが国は、音楽の参加形態が能動的ではなく受動的な、聴取者の国になったのである。そのために音楽は、日常生活の不可欠な部分というよりむしろ、演奏会場で聴かれる玄人向きの芸術となった」（p.21）と述べている。学校においても、当時の音楽文化に適った音楽教育を行うため、器楽教育や鑑賞教育も加味した総合的な音楽科への転換が目指されたのではなかろうか。音楽科成立について荒巻（2001）は、「アメリカにおいて音楽科は、

世紀転換期における音楽科教育運動の成果として、1917年の中等学校改造審議会音楽科委員会報告と1921年のMSNC教育委員会報告において成立した」(p.343)と述べている。

唱歌科から音楽科への過渡期には、音楽教育に関する研究や実践や議論が活発になり、多くの音楽教育関係誌が発行された(荒巻 2001, p.45)。それゆえ、当時の音楽教育関係誌には、アメリカ合衆国の唱歌科から音楽科への過渡期における動向の一端が表れていると推察される。

本研究では、当時発行された音楽教育関係誌である *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* と *Music Supervisors' Journal* に着目する。掲載内容の検討を行うことより、音楽科成立期のアメリカ合衆国の音楽教育の動向と各雑誌の特性を詳らかにすることを本研究の目的とする。

各雑誌を発行した組織である Music Teachers' National Association と Music Supervisors' National Conference は、現在も活動を行っており、1世紀以上もの歴史を有している。アメリカ合衆国の音楽教育に長きにわたって貢献した組織の出版物に着目することは、当時の音楽教育の動向を考察する上で極めて意義深いと考える。

本研究では、1917年に出版された *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* と *Music Supervisors' Journal* に掲載されている鑑賞教育に関する記事に着目する。1917年は、中等学校において音楽科が成立した年である。2つの音楽教育関係誌に掲載されている鑑賞教育に関する記事を比較することにより、音楽科成立期における鑑賞教育の動向を考察し、更に各雑誌の特性についても考察したい。

2 *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* の概要

(1) Music Teachers' National Association

Music Teachers' National Association (音楽教師全国協会) (以下、MTNA) は、Theodore Presser と 62 人の同僚によって 1876 年に設立された非営利専門団体である。音楽教育の専門家の支援や音楽研究の価値を社会に広めることを目的とし、現在では 51 の州に約 22,000 人の会員と 500 を超える地元の関連会社を有している。(Music Teachers' National Association ホームページ)

(2) 創刊の経緯

MTNA の出版した音楽教育関係である *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* は、MTNA の総会の内容を共有することを目的としており、論文と議事録で構成されている。1906年に創刊され、1926年まで刊行されていた。MTNA は 1876年から 1897年までは、総会の文書と議事録を出版しており、1906年に復活させたものが当該雑誌にあたる (Introductory Note・MTNA 1906, p.3)。当該雑誌の内容構成は一貫しており、2つのパートで構成されている。パート 1 では論文または論文とレポート、パート 2 では議事録または議事録などが掲載されている。

当該雑誌の出版の目的は、学術的、歴史的、理論的、哲学的に重要な音楽の話題を科学的な方法で議論する場にするため、総会に出席できない読者に対して特別な考えや研究の成果を提供し、総会で十分に述べることができないような詳細な情報も提供することであった (Introductory Note・MTNA 1906, p.3)。当該雑誌の価値を明確に示すことにより、音楽関係の職業に携わる者が、協会の恒久的かつ定期的な支持者となることが望まれた (Introductory Note・MTNA 1906, p.3)。

1907年の当該雑誌によると、1906年の当該雑誌の発行は、実験的なものであったが、広範囲の図書館や個人に受け入れられたことにより、多様な話題と問題を示すために毎年刊行されるようになった (Introductory Note・MTNA 1907, p.3)。1年分の雑誌に掲載できるのは、音楽教育に関する話題や問題の一部のみであるが、数年後には音楽教育の全ての側面が実りあるものになることを期待した (Introductory Note・MTNA 1907, p.3)。

3 *Music Supervisors' Journal* の概要

(1) Music Supervisors' National Conference

1906年のサンフランシスコ地震により、1907年の National Education Association (NEA) 総会が中止とな

った。NEA 音楽部門の P. C. Hayden (公立初等学校の音楽指導主事) の呼び掛けにより同僚らによって Music Supervisors' National Conference (以下, MSNC) が結成された。当時, 音楽教育の発展により, より詳細な教育方法に焦点が当てられたため, より良いサービスを提供するために NEA とは別の組織を設立したのである (National Association for Music Education ホームページ)。Hayden は, 自身が行った実験を基に, 同僚との技術の共有, 音楽教育の方法や理論についての議論を熱望していた (National Association for Music Education ホームページ)。

創設の目的は, 子どもたちに音楽を教えるための方法や理論についての勧告であった (Salutatory!・MSNC 1914, p.2)。創設から現在まで, 全ての子どもが, バランス良く, 包括的で, 質の高い音楽教育を受けることができるように尽力している。また, 職業としての音楽教育の確立や, 学校カリキュラムの不可欠な部分としての音楽学習の促進, 芸術教育の国家基準の策定も行った (National Association for Music Education ホームページ)。創設当時は小規模な組織であったが, 次第にメンバーを増やし, 大規模な組織へと発展した。創設から 1 世紀以上経った現在では, 世界最大規模の芸術教育機関となり, National Association for Music Education (NAfME) という名称のもと活動を行っている。

(2) 創刊の経緯

MSNC は 1914 年に音楽教育関係誌 *Music Supervisors' Bulletin* を創刊し, 1915 年には *Music Supervisors' Journal* へと名称を変更した。更に, 1934 年に 2 度目の名称変更を経て, 現在は *Music Educators Journal* という誌名で刊行している。MSNC は, 音楽教育に関心をもつ人々のための雑誌と位置付けており, 創刊号は, 6,000 人以上に送付された (Salutatory!・MSNC 1914, p.2)。現在と将来の会員のための情報共有が当該雑誌の目的であった (An Open Forum・MSNC 1914, p.3)。

組織の活動期間の長さ及び音楽教育関係誌の刊行期間の長さから, アメリカ合衆国の音楽教育における当該雑誌の重要性が推察される。Freer (2015) は, 「*Music Educators Journal* は音楽教育の業界で最も古くから継続して出版されている雑誌であり, あらゆる音楽教育出版物の中でも世界最大の読者数へと成長した」(p.111) と述べている。

構成は各号毎に異なり, 音楽教育関係者のコメントや記事, 全米音楽指導主事大会に関する記事, 企業や学校の広告から成る。

Music Supervisors' Bulletin が創刊された 1914 年の全米音楽指導主事大会 (以下総会) のポイントは, 「学校音楽の目的は何か?」という問いであった (Impressions of the Meeting. A Symposium・Gehrkens 1914, p.8)。1914 年より数年前の学校音楽の目的は視唱を教えることであったが, 問題点として, 視唱が学校の全てとなり, 子どもが視唱を嫌いになったことが挙げられた (Impressions of the Meeting. A Symposium・Gehrkens 1914, pp.8-9)。美的側面と感情的側面も重視したいが, 美しい歌へのアプローチには視唱 (読譜力) は必須であるとされた (Impressions of the Meeting. A Symposium・Gehrkens 1914, p.9)。これに加え, 鑑賞が重要視され, 鑑賞により音楽を理解する能力を高めることが求められた (Impressions of the Meeting. A Symposium・Gehrkens 1914, p.9)。1914 年総会の主要な演説においても, 標準的な教育者は音楽の知識は学術的であると認めておらず, 知識は鑑賞され, 評価されるまで力をもたないこと (Appreciation of Appreciation・Winship 1914, pp.14-16) が述べられ, 鑑賞の重要性が主張された。

4 1917 年の鑑賞教育に関連する記事

(1) *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*

1917 年の *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* において, 鑑賞教育を取り扱った記事は, パート 1 すなわち論文として掲載されていた。Conference, Public School Music (公立学校会議の報告) の中で 5 つの記事が掲載された。鑑賞教育に関する掲載内容は, 以下の通りである。

Conference, Public School Music:

①タイトル: 公立学校音楽委員会の報告

執筆者：KARL W. GEHRKENS, Chairman

所属：Oberlin Conservatory, Oberlin, Ohio

公立学校会議に関わる音楽教育関係者は、地理的に離れていることから、会合を開くことが困難であり、トピックの提供にとどまっていた（Report of the Committee on Public School Music・Gehrrens 1917, p.82）。蓄音機とピアノの発達及び普及により、生徒たちが楽器の名曲をより簡単に理解できるようになってきており、今後の10年間に公立学校の器楽が発展することが予測された（Report of the Committee on Public School Music・Gehrrens 1917, p.85）。当時の音楽鑑賞の授業は、担当者が計画や方法や学識を欠いていることが多く、首尾よく行われていなかった。しかし、その一方で、十分に訓練された教師が高校の音楽に配属されるようになり、今後の高校の音楽鑑賞の活動は発展が期待できる（Report of the Committee on Public School Music・Gehrrens 1917, p.83）と考えられた。また、近年の音楽教育の発展により、音楽指導主事は音楽家同様に職業に誇りを持つことが出来るようになった（Report of the Committee on Public School Music・Gehrrens 1917, p.87）。

②タイトル：鑑賞を教える理由

執筆者：CHARLES H. FARNSWORTH

所属：Teacher College, New York City

鑑賞を教える理由としては、音楽を制作する者よりも鑑賞する者の方が多く、一般大衆が音楽に触れ、楽しむためには理知的な区別が必要であることが述べられた（Why Teach Appreciation・Farnsworth 1917, p.94）。

当時発表された学校教育の目標に関する声明を学校音楽に適用する場合、2つの義務が考えられた。第一に、学校の音楽において、若者がより良い音楽活動を行うための手助けをすること。第二に、より良い音楽活動を示し、望ましく、可能なものにするための手助けをすること。これらは、「若者が行いそうな音楽活動は何か。」「教師は高度な音楽活動をいかにして望ましく、可能なものにするのか」という問題を提起した（Why Teach Appreciation・Farnsworth 1917, p.88）。

若者は、音楽活動として、楽器の演奏や歌唱に加え、鑑賞や創作も求められた（Why Teach Appreciation・Farnsworth 1917, p.88）。鑑賞教育は、音楽制作の活動の一環として捉えられ、鑑賞教育の充実により、制作される音楽にも変化がもたらされると推察されたが、実際は進歩が遅く、原因として、一般大衆における音楽的な知識の欠如が挙げられた（Why Teach Appreciation・Farnsworth 1917, p.90）。

③タイトル：専門的な活動なしに音楽の鑑賞を促進する方法

執筆者：FREDERICK H. RIPLEY

所属：Prince School, Boston

学校音楽における音楽理論の学習について述べられた。学校音楽によって、多くの優れた音楽家を輩出することは期待されないが、一般大衆に音楽の知識を普及させることは、鑑賞者を育成し、音楽家の利益に繋がるだけでなく、アメリカ合衆国における音楽をより楽しく、影響力のあるものにするのが期待された（How to Promote Musical Appreciation without Technical Work・Ripley 1917, p.104）。

④タイトル：音楽鑑賞活動のための農村学校教師の準備

執筆者：MAX SCHOEN

所属：East Tennessee State Normal School, Johnson City, Tenn

農村における鑑賞教育では、音楽の経験や環境を創造し、音楽に対する理知的な反応を養うことが目指された。農村は都会に比べて音楽環境が整っておらず、演奏を聴く機会が少ない。そのため、農村の音楽教師は、音楽の美しさや価値をより簡潔かつ明確に伝えなければならず、様々な音楽を鑑賞するにあたり、蓄音器が重宝された（The Preparation of the Rural School Teacher for Work in Music Appreciation・Schoen 1917, pp.105-108.）。

⑤タイトル：高校での音楽鑑賞

執筆者：MARY L. REGAL

所属：Central High School, Springfield, Mass

スプリングフィールド高校では、音楽鑑賞の授業は選択性であり、授業外での準備は不要であった。音楽鑑賞は2つの授業に分かれており、「音楽鑑賞1」「音楽鑑賞2」と呼ばれる45分単位の授業が各週2回あった（*Music Appreciation in the High School*・Regal, pp.109-110）。「音楽鑑賞1」では、楽曲の一部または全部を繰り返し聴くことにより、楽曲や構成に関する初歩的な知識を提供することを目的とした（*Music Appreciation in the High School*・Regal, p.110）。「音楽鑑賞2」では、セメスター毎に、音楽史、ピアノ、バイオリン、シンフォニー、特定の作曲家、オペラなど多岐にわたる内容を取り扱った（*Music Appreciation in the High School*・Regal, p.113）。

これらの授業の成果をテストすることはできないが、授業を経ることにより、多くの生徒において音楽への関心の高まりがみられた（*Music Appreciation in the High School*・Regal, p.115）。

1917年の *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* における鑑賞教育に関する掲載内容を概観すると、多くの学校において鑑賞教育が行われるようになったり、実施を試みたりしていることが明らかとなった。執筆者は音楽院、教員養成大学、師範学校、セントラルハイスクールの教員であり、各々の学校が位置する地域の音楽教育の状況も踏まえながら報告がなされた。公立学校における鑑賞教育では、プロの音楽家の育成というよりも、音楽家の演奏を鑑賞する聴取者の育成が目的とされた。また、地域ごとに音楽環境の格差があるため、農村では音楽環境が十分に整っていない様子が見受けられた。このような地域では、子どもが音楽に触れるためのより多くの機会を音楽教師が提供することが必要とされた。

（2）*Music Supervisors' Journal*

1917年の1月、3月、9月、11月に出版された *Music Supervisors' Journal* においては、鑑賞教育に関する掲載記事は1つであった。タイトルは「何故音楽鑑賞を勉強するのか？」であり、Willys P. Kent (Director of Music, Ethical Culture School, New York City) が高校生に向けて行った講演の内容である。ここでは、音楽は美術や文学と異なり、多くの人が一度に参加できる唯一の芸術であり、社会的価値が高いとみなされていた（*Why Study Music Appreciation*・Kent 1917, p.90）。人々が音楽を鑑賞するために、作曲家についての事実を教えるのではなく、作品を愛する手助けをすることが鑑賞教育の目的とされた（*Why Study Music Appreciation*・Kent 1917, pp.18-22）。

Kentの演説の他には、総会の報告文の一部に、鑑賞教育に関する記述が存在した。グランドラピッツのほとんどの学校において、蓄音器とレコードが備えられており、これらを用いた鑑賞活動に加え、セントラルハイスクールによるコンサートによって鑑賞する能力と同様に演奏する能力も育もうとしたこと（*Beattie*・*A Message from Grand Rapids* 1917, p.7）、グランドラピッツで行われた総会のラウンドテーブルの1つにおいて、グレードスクールでの音楽鑑賞に関して討論がなされたこと（*MSNC*・*The Record of the Grand Rapids Conference* 1917, p.3）が述べられた。ラウンドテーブルでの討論の内容の詳細は、当該雑誌には掲載されていなかった。

また、1917年の毎号において、Victor Talking Machine Co.またはThe Forseman Educational Record Corporationが、蓄音器やレコードの広告を掲載した。Victor Talking Machine Co.は、蓄音器やレコードに加え、農村の学校のためのブックレット（Victor Talking Machine Co. 1917, p.13）も販売していた。Victor Talking Machine Co.の販売するレコードは、世界の音楽家の演奏や作品を扱っており、歌唱や器楽に関する十分な教育を受けていない子どもが様々な音楽を鑑賞ができるよう配慮がなされていた（Victor Talking Machine Co. 1917, p.25）。鑑賞のみならず、音楽史の授業での活用も推奨された（Victor Talking Machine Co. 1917, p.23）。The Forseman Educational Record Corporationは、レコードに関する広告を掲載しており、授業や学校全体で毎日使用可能なもの（The Forseman Educational Record Corporation 1917, p.11）やリズム、ピッチ、フレーズ、音の長さ、音程、和声、解釈などの音楽の要素を教えるためのもの（The Forseman Educational Record Corporation 1917, p.25）が紹介された。

1917年の *Music Supervisors' Journal* における鑑賞教育に関する掲載内容からは、グランドラピッツの多

くの学校において蓄音器及びレコードが設置され、鑑賞教育が行われていた状況が明らかとなった。また、企業の広告により、農村の学校や、音楽教育を十分に受けていない子どものためのブックレットやレコードが販売されていたことが見受けられた。蓄音器やレコードは、鑑賞のみならず、音楽史や音楽の要素の教授においても活用が目指された。

5 おわりに

本研究では、1917年に出版された *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* と *Music Supervisors' Journal* における鑑賞教育に関する記事の検討を行った。

Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association では、公立学校会議の報告として、5つの鑑賞教育に関する記事が掲載された。掲載内容から、鑑賞教育に適した環境が整い、高校における鑑賞教育の発展が期待される一方で、農村では音楽環境が十分に整っておらず、蓄音器やレコードのより一層の使用など子どもが音楽に触れる機会の提供が求めている状況が明らかとなった。このような、地域の格差に対して1917年以降どのような取り組みがなされたのか、今後も検討する必要がある。

一方、*Music Supervisors' Journal* においては、鑑賞教育に特化した掲載記事は1つであったが、Victor Talking Machine Co. と The Forseman Educational Record Corporation が蓄音器やレコードやブックレットに関する広告を掲載しており、農村の学校に対する配慮や、鑑賞や音楽史の授業に対する提案、レコードの内容の活用の仕方などの企業の工夫が見受けられた。地域による音楽環境の格差や、多くの学校において蓄音器やレコードが活用されていた様子など、*Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* の掲載記事と通ずる内容が見受けられた。また、*Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association* では、高校の鑑賞教育に関する記事がほとんどであったが、*Music Supervisors' Journal* ではMSNCの総会においてグレードスクールの鑑賞教育が討論されたことが明らかとなった。グレードスクールで行われていた鑑賞教育の内容に関しては、今後検討を行いたい。

雑誌の構成及び、記事数に差はあったが、2つの雑誌において「鑑賞を教える理由」「何故音楽鑑賞を勉強するのか?」といった、鑑賞教育を教えることや学ぶことに関する「何故」という問いに基づく記事を掲載していたことは共通していた。このことは、鑑賞教育の必要性が明確になった一方で、教える側や教えられる側に十分に理解されていなかったため、雑誌や講演を通して主張されたと考えられる。鑑賞を学ぶ理由や目的としては、聴衆の育成や、音楽制作への活用などが挙げられたが、都会と農村ではギャップがあったようである。

今後は、初等学校において音楽科が成立した1921年など、他の年の掲載記事を検討することにより、鑑賞教育がどのように変遷したのかを考察する必要がある。また、当時のブックレットやレコードの内容においても、企業が出版した雑誌及び広告を基に検討した上で、鑑賞教育のみならず、音楽科の設立に向けて、行われたその他の実験や実践にも着目する必要がある。

第一次史料

- Beattie, J. W. (1917) "A Message from Grand Rapids," *Music Supervisors' Journal*, Vol. III, No. 3, pp.5-7.
- Gehrkins, K. W. (1914) "Impressions of the Meeting. A Symposium," *Music Supervisors' Bulletin*, Vol. I, No. 1, pp.8-9.
- Kent, W. P. (1917) "Why Study Music Appreciation?" *Music Supervisors' Journal*, Vol. IV, No. 1, pp.18-22.
- Music Supervisors' National Conference (1914) "Salutatory!" *Music Supervisors' Bulletin*, Vol. I, No. 1, p.2.
- Music Supervisors' National Conference (1914) "An Open Forum," *Music Supervisors' Bulletin*, Vol. I, No. 1, p.3.
- Music Supervisors' National Conference (1917) "The Record of the Grand Rapids Conference," *Music Supervisors' Journal*, Vol. IV, No. 1, p.3.
- The Forseman Educational Record Corporation (1917) *Music Supervisors' Journal*, Vol. III, No. 3, p.11.
- The Forseman Educational Record Corporation (1917) *Music Supervisors' Journal*, Vol. III, No. 4, p.25.
- Victor Talking Machine Co. (1917) *Music Supervisors' Journal*, Vol. III, No. 3, p.13.

- Victor Talking Machine Co. (1917) *Music Supervisors' Journal*, Vol.III, No. 4, p.23.
- Victor Talking Machine Co. (1917) *Music Supervisors' Journal*, Vol.IV, No. 1, p.25.
- Winship, A. E. (1914) “Appreciation of Appreciation,” *Music Supervisors' Bulletin*, Vol. I , No. 2, pp.14-30.

web 第一次史料

- Farnsworth, C. H. (1917) “Why Teach Appreciation,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, pp.88-94.
- Gehrkens, K. W. (1917) “Report of the Committee on Public School Music,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, pp.82-87.
- National Educational Association (1985) *Report of the Committee of Fifteen*, American Books Company.
- Music Teachers' National Association (1906) “Introductory Note,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, p.3.
- Music Teachers' National Association (1907) “Introductory Note,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, p.3.
- Regal, M. L. (1917) “Music Appreciation in the High School,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, pp.109-115.
- Ripley, F. H. (1917) “How to Promote Musical Appreciation without Technical Work,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, pp.95-104.
- Schoen, M. (1917) “The Preparation of the Rural School Teacher for Work in Music Appreciation,” *Papers and proceedings of the Music Teachers' National Association*, pp.105-108.

引用・参考文献

- 荒巻治美 (2001) 『アメリカ音楽科教育成立史研究』 風間書房
- Freer, P. K. (2015) “Let Us Give the Light to Them”: Bookending the First Century of *Music Educators Journal*, *Journal of Historical Research in Music Education*, pp.111-128.
- Mark, M. L. (1978) *Contemporary Music Education*, Schirmer Books.
- マーク, マイクル L./松本ミサヲ, 田畑八郎共訳 (1986) 『音楽教育の現代化』 音楽之友社

web 引用・参考文献

- Music Teachers National Association 音楽教師全国協会
<https://www.mtna.org/MTNA/Home/MTNA/Default.aspx?hkey=91963004-fbe4-4711-a192-b6293aedc31c>
(2019年12月13日最終アクセス)
- National Association for Music Education 全米音楽教育協会
<https://nafme.org/nafmes-history-the-evolution-of-music-education-and-taylor-swift/>
(2019年12月13日最終アクセス)